

- 1913(大正2)年
  - ・施設の拡充が図られ、工場の増設が完成。アンモニア製氷機、蒸気機関、精米機、細菌学研究設備、冷却装置が設けられたことで清酒の四季醸造が可能となる
  - (和歌山県妙寺村にいた「純粋酵母醸法」の研究者・溝端久太郎の全面的な協力を得て、四季醸造が可能に。四季醸造は計画生産ができるために、大幅なコストダウンができ、酒造界に一大革新を促す画期的なものであった)
  - ・事業拡大後、敷地面積3700坪、建物は工場と倉庫を含め10棟からなり、総建て坪は2200坪だった
  - ・「長安正宗」を新たに売り出す

- 1914(大正3)年
  - ・冷蔵庫をつくり実験的に夏仕込みも行うようになる

- 1915(大正4)年
  - ・酵母製造を主体とする酒造研究所が完成
  - ・この頃の年間製造高は約3000石

- 1917(大正6)年
  - ・酒造研究所が火災により焼失するが、すぐに再建する

- 1921(大正10)年
  - ・この頃の年間製造高は約6000石となり、県内第一の製造高を誇った。
  - (富名醸造株式会社の製造高と併せると1万石を超え、この頃福島は念願の目標を達成したことになる。当時青森県全体の酒造量は8万3000石)

- 1922(大正11)年
  - ・福島醸造株式会社設立(個人企業から株式会社へと進展させる) 資本金200万

- 1923(大正12)年
  - ・倉庫増築(現存するA棟、B棟もこの頃に建てられる)



煉瓦倉庫外観  
弘前市立弘前図書館蔵



当時のB棟1階の様子  
福島家蔵

- 1931(昭和6)年



吉田初三郎《弘前市鳥瞰図原画》より部分  
右の写真、画面右手に見えるピンク色の建物が煉瓦倉庫  
弘前市立弘前図書館蔵



当時のB棟2階の様子  
1932年以前  
弘前市立弘前図書館蔵

## 1910's-

- 1910(明治42)年
  - ・青森市が未曾有の大火に見舞われる(全市街の3分の2が焼失)
  - ・福島藤助は取り立てていた酒屋の惨状をみかねてバラックを建てる

- 1913(大正2)年
  - ・青森県内は未曾有の大凶作

- 1914(大正3)年
  - ・7月28日、第一次世界大戦勃発

- 1915(大正4)年
  - ・大正天皇をお迎えして大規模な陸軍特別大演習が行われる

- 1917(大正6)年
  - ・5月、富田から出火、土手町、松森町、品川町一帯533戸焼失

- 1918(大正7)年
  - ・第1回観桜会(さくらまつり)開催
  - ・清水村富田字名屋場に富名醸造株式会社が設立され、福島藤助が社長を務める
  - ・福島藤助、札幌市南四条の時計台付近に青森県物産館を建設、「吉野桜」「長安正宗」をはじめとした県内物産の販売に努める

- 1919(大正8)年
  - ・弘前座(旧 榎木座)落成、社長を福島藤助が務める
  - ・福島、堀越村に株式会社日本農園を設立、取締役役に就任
  - ・福島、相良町に弘前印刷会社を設立、取締役役に就任
  - ・福島、富田字清水野に富士食料会社を設立、同敷地内に陸奥製糸株式会社を設立



福島藤助が再建に携わった「弘前座」  
弘前市立弘前図書館蔵

## 1920's-

- 1920(大正9)年
  - ・福島藤助、第5回奥羽六県連合品評会の祝賀式会場にあてるため、私財を投じて私設公会堂「長安倶楽部」をわずか40日で建設。木造鋼葺平屋造133坪、150畳敷きの大広間を中心に幅一間の縁側をめぐらし、北側には床の間、南側には踊舞台をつくらえ、よりぬきの材料が使われた。後日一般に公開され、結婚式・演芸・茶華道その他の諸会合など、市民の社交場として活用された
  - ・第一次世界大戦 終結

- 1921(大正10)年
  - ・福島藤助、清水村富田に富士醸造株式会社を設立、翌年富名醸造に合併
  - ・福島藤助が冷却装置運転などの動力を自力で賄うために計画した水力発電所の工事着工。場所は相馬村紙漉沢(現 弘前市紙漉沢)
  - ・官立弘前高等学校(現 弘前大学)開校
  - ・J.M. ガーディナーの設計による弘前昇天教会が建設される

- 1923(大正12)年
  - ・関東大震災
  - ・東北地方初のデパート、「かくは宮川」土手町に開店
  - ・村上要作(相撲の元関取綾川)がアップル・ブランデー事業に乗り出す

- 1924(大正13)年
  - ・福島藤助が建設した水力発電所が完成

- 1925(大正14)年
  - ・7月6日、福島藤助が心臓麻痺により急逝(享年55)

- 1927(昭和2)年
  - ・太宰治、旧制弘前高等学校に入学。3年後の同校卒業までの間を弘前で過ごす

- 1928(昭和3)年
  - ・4月1日、清水村吉野および清水村紙漉沢地区が弘前市に編入
  - ・4月18日、富田から出火し601戸焼失

## 1930's-

- 1931(昭和6)年
  - ・満州事変
  - ・坂口謹一郎博士(東京大学農学部)がリンゴ酒醸造に関する論文を発表

- 1933(昭和8)年
  - ・リンゴ酒事業を進めていた佐藤弥作と田中武男が「発泡性林檎酒醸造方法」と名付けた特許を申請(1935年に成立)

- 1934(昭和9)年
  - ・4月14日 楠美冬次郎 満州にて没(享年72)
  - ・青森県内では冷害で大凶作に見舞われ身売り女性や欠食児童続出
  - ・ニッカウヰスキーの前身「大日本果汁株式会社」が竹鶴政孝により設立

- 1937(昭和12)年
  - ・収穫したリンゴの屑実の加工利用によって農村工業の育成を図る事業が進められる。リンゴ酒をはじめとする加工飲料、加工食品の製造が企画される

- 1939(昭和14)年
  - ・弘前市品川町に御幸商會が設立される

- 1939(昭和14)～1940(昭和15)年頃
  - ・御幸商會の工場として一時借用される



割烹中三(吉野町3-3)  
1932年以前  
弘前市立弘前図書館蔵